

## ■ 令和2年度卒業式：式辞 ■

卒業生の皆さん。卒業おめでとうございます。鵜沼第二小学校の全職員を代表して、心より祝福いたします。今日、百三十二名の全員が無事にこの日を迎えられたことを本当に嬉しく思います。

皆さんは、「BEST 最高最善（自分のために、仲間のために、全校のために）考勤～伝説の六年生」になる、という目標を掲げて、この一年を過ごしてきました。

思えば、6月の学校再開以降、みんなで楽しくおしゃべりができない、実験ができない、合唱ができない、運動会も中止という、「できない」ことだらけの学校生活が続きました。この厳しい状況は、ある意味、歴史に残る出来事だったといえるでしょう。けれど皆さんは、そんな、ないない尽くしの学校生活にあって、たくさんの「できた！」を残してくれました。中でも素晴らしかったのはやはり、「新・鵜二っ子まつり」の開催です。

三密を避けながら、人と人との距離を取って、心の距離を縮める、という何とも難しい課題を、見事に解決してくれましたね。一人一人が、最高学年として、チーム鵜二の先頭に立ち、知恵を出し合い、試行錯誤しながら、新しい形の、みんなが楽しめるお祭りを、この鵜沼第二小学校に残してくれました。本当にありがとう。

計画・準備の段階では、二度目の「緊急事態宣言」が発令される、という大ピンチがありましたが、それでも皆さんは、決してあきらめることなく、私に直訴までして、全校の仲間のために、自分の持てる最高・最善を尽くしました。だから、「できない」を「できる」に変えられたのです。そんな皆さんの姿は、まさに「伝説」と呼ぶにふさわしい、と断言できます。

そんな皆さんに、私から最後のお願いがあります。

それは、この、『無』から『有』を生み出した経験や「あきらめない心」、そして何よりも、「やってやるぞ！」という「強い思いや願い」を、これからも忘れないで欲しい、持ち続けて欲しいということです。なぜかという、それは皆さんが、「ソサエティ5.0」という、新しい世の中を生きていかなければならないからです。iPad 贈呈式の時に勉強したように、これからはますますAIが進歩して、世の中は一層便利になるでしょう。けれど、皆さんには、AIに使われてしまうような人にはなって欲しくないのです。AIは、膨大なデータを分析することは得意です。その結果、模範的な「答え」を出すこともできます。けれど、一人一人の幸せにぴったり合う「最適な答え」を出すことは不得意なのです。

例えば、緊急事態宣言中に「新・鵜二っ子まつり」の危険度や実現率を、AIに分析させていたら、どんな答えを示していたと思いますか。「100%大丈夫！」と言ってくれたと思いますか。

皆さんが証明してくれたように、困難な状況を突破する力は、人間にしかありません。中学校では、新しい経験がたくさんできます。新たな友達も待っています。本当に、楽しみです。でも、ピンチも必ずやってきます。そんな時こそ、小学校で手に入れた、自分の可能性をあきらめないこと、仲間のことを思いやること、そして、強い思いや願いを持ち続けることを最強のアイテムにして、未来に続く道を切り拓いて欲しい、生きて、生きて、生き抜いてほしいと願っています。

この六年間、ボランティアや美しい歌声づくりなど、チーム鵜二で一生懸命取り組み、さらに、新たな歴史を刻んだ君たちになら、きっとできます。職員一同、それを固く信じています。できなかったことを嘆くのではなく、できたことを誇りに思って、中学校に入学してください。

最後になりましたが、卒業生と本校のためにお力添えを賜りました保護者の皆様に、改めて、厚くお礼を申し上げます。今後とも温かく見守っていただきますようお願い申し上げます。

皆さんの前途に幸多からんことをお祈りして、私の式辞といたします。

令和三年三月二十五日  
各務原市立鵜沼第二小学校長 山田高秀